

基礎・境界 ソサイエティ

THE VERY FINAL ISSUE!

ニューズレター

April 2007 No.61



The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

目次	新ソサイエティ誌 Fundamentals Review 創刊について	1
	平成 18 年度運営委員会メンバ紹介 (その 2)	2
	CFP: 15th IEEE International Workshop on Nonlinear Dynamics of Electronic Systems (NDES 2007)	5
	第20回 回路とシステム軽井沢ワークショップ開催案内	6

新ソサイエティ誌

Fundamentals Review 創刊について

COMING SOON
featuring 甘利俊一先生の特別寄稿
and lots more!

基礎・境界ソサイエティは 2007 年度より、従来のニューズレターを大幅に発展させた新ソサイエティ誌 Fundamentals Review を発行することになりました。これに伴い、本ニューズレターはこれが最終号となります(*注 1)。Fundamentals Review は年 4 回の発行を予定しており、従来のニューズレターの内容にとどまらず、学会誌よりも専門性の高い記事や論文などを掲載し、基礎・境界ソサイエティ会員間の情報共有および意見交換の場として利用していく予定です。このため、各研究会からメンバを募り、現ソサイエティ編集長の中村勝洋先生(千葉大)を編集長とする Fundamentals Review 編集委員会を 2007 年 1 月に発足させました。今後、基礎・境界ソサイエティ会員の皆様のアクティビティを PR する場として活用していただければ幸いです。なお、現在 pdf による電子的配布を考えておりますが、創刊号については紙媒体でも ESS 会員に配布する予定です。

(注 1): Fundamentals Review への記事掲載を希望される方は、編集幹事 西尾 芳文 (nishio@ee.tokushima-u.ac.jp) までご連絡ください。従来どおり、論文募集・会議開催案内、会議参加報告、研究会紹介・活動報告、その他、基礎・境界ソサイエティに対するご意見などを受け付けております。

ご参考: Fundamentals Review 「原稿執筆のしおり」より抜粋

1. 執筆上の注意事項

(a) 以下の点に留意し執筆されたい。

- (1) 原稿は任意の A4 判の用紙で 1 枚 25 字×24 行で作成する。
これが 4 枚で刷り上がり 1 ページ (約 2,450 文字) となる。
- (2) 編集時に赤字を入れるので、行間及び周囲の余白を広くとること。
- (3) 原稿提出にあたっては、必ず電子ファイル、または、ハードコピーの控えを手元に保管すること。
- (4) ハードコピーと共に、フロッピーディスク、MO、CD、メール(service@ieice.org)等で電子ファイルを送付すること。
- (5) 電子ファイルを送付する際には、必ず以下を明記すること。

- ① OS名とバージョン
- ② ワードプロソフト名とバージョン
- ③ 図を作成したソフト名とバージョン (例) Windows 2000 Word 2000, Adobe Illustrator ver. 10

注1) 文字コードはシフトJISコードとする

- (b) 記事の種類, 標題, 会員・非会員の別, 氏名及び勤務先・所属 (なるべく詳しく) を原稿第1ページに和・英両文で記すこと. 第2ページ以降を本文とする.
- (c) 用語解説 専門外の会員に理解困難と思われる用語・略語については努めて用語解説をつけること.
なお, 編集委員会で閲読の結果, 必要と思われる用語・略語については用語解説の執筆を依頼する.
- (d) 文体は, 口語文章体とすること
- (e) 原則として「常用漢字」を用い, 仮名は「新仮名づかい」とすること.
- (f) 数字, ローマ字, ギリシャ文字, ドイツ文字などは特に明りょうに (大文字, 小文字, 上つき, 下つき, イタリアック体の別など) 記載すること.
- (g) 句読点は「.」及び「,」を用い, それぞれ1画を用いること.
- (h) 用語は, 原則として,
 - ①文部科学省「学術用語集電気工学編」,
 - ②本会編「改訂電子情報通信用語辞典」,
 - ③「エンサイクロペディア電子情報通信ハンドブック」

を参照のこと.

- (i) 量記号・単位記号の略号 (SI) 及びシンボルは, 原則として「電子情報通信ハンドブック」記載のものを用いること.
- (j) 本文中に用いる記号には必ず説明をつけること.
- (k) 図中に用いる文字は日本語とする.
- (l) 図面の説明: すべての図面には, 図の番号・ネームのほかに, 2~4行の説明を付し, それだけで理解できるようにする. 説明文は, 本文と重複してもかまわない.
- (m) 下記に該当する図表, 写真は避けること.
 - (1) こすって消えるもの
 - (2) 不鮮明に複写されたもの
 - (3) 記号や線が専門家でない人が見て判断しにくいもの

なお, 図面は刷り上がり寸法の2~3倍の大きさに書くこと. 図, 表, 写真の挿入箇所を原稿用紙の右欄外に明記すること.

- (n) 図表, 写真を他の図書, 雑誌などから引用する場合は, その著者及び出版社の了解を得た上, 原稿を送付願いたい.
- (o) ページ計算: ページ計算は下記を目安として頂きたい.

13級組 (9ボ)

本文は2,450文字 (25文字×49行×2段) で刷り上がり1ページとなる (ただし, 見出し部分, 著者紹介, 図面等を含む). 写真, 図表は4図程度で刷り上がり1ページとなる. 文献は20編程度で刷り上がり0.5ページとなる.

(p) 文献の書き方

- (1) 文献は以下の形式により作成すること.
- (2) 本文中に引用する順番に並べること.
- (3) 著者が複数の場合も, 全著者の氏名を記入すること.
- (4) 論文標題中の単語については, 文頭以外は小文字を使用すること.
- (5) 雑誌名は, 「学術雑誌略語表」に従って略語で記すこと.

・雑誌

(1) 著者名, “標題,” 雑誌名, 巻, 号, pp. をつけて始め-終りのページ, 月 (英語) 年.

(1) 山上一郎, 山下二郎, “パラメトリック増幅器,” 信学論 (B), vol. J62-B, no. 1, pp. 20-27, Jan. 1979.

(1) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, “Diffusion of impurities during epitaxy,”

Proc. IEEE, vol. 52, no. 3, pp. 284-290, March 1964.

・著書, 編書

(2) 著者名, 書名, 編者名, 発行所, 発行都市名, 発行年.

(2) 山田太郎, 移動通信, 木村次郎 (編), pp. 21-41, (社) 電子情報通信学会, 東京, 1989.

(2) Handbook of Sensory Physiology, M. G. F. Fuortes, ed., Springer-Verlag, Berlin, 1972.

・著書の一部を引用する場合

(3) 著者名, “標題,” 書名, 編者名, 章番号または pp. をつけて始め-終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年.

(3) 山田太郎, “周波数の有効利用,” 移動通信, 木村次郎 (編), pp. 21-41, (社) 電子情報通信学会, 1989.

(3) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratliff, “Inhibitory interaction in the retina,” in Handbook of Sensory Physiology, M. G. F. Fuortes, ed., pp. 381-390, Springer-Verlag, Berlin, 1972.

・国際会議

(4) 著者名, “標題,” 会議名, no. をつけて論文番号, pp. をつけて始め-終りのページ, 都市名, 国名, 月 (英語) 年.

(4) Y. Yamamoto and K. Igeta, “Micro-cavity semiconductors with enhanced spontaneous emission,” Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun., no. MoF 4.6, pp. 3-13, Amsterdam. The Netherlands, Sept. 1990.

・国内大会, 研究会論文集

(5) 著者名, “標題,” 学会論文集名, 分冊または号, no. をつけて論文番号, pp. をつけて始め-終りのページ, 月 (英語) 年.

(5) 川上三郎, 川口四郎, “紫外域半導体レーザー,” 1995 信学総大, 分冊 2, no. SB2-1, pp. 20-21, Sept. 1995.

・国の報告書, 編書

(6) 発行機関 (編), 書名, 発行年.

(6) 文部省 (編), 中学校指導書 数学編, 平成元年.

一般に公開されない文献, 例えば, 委員会報告, 社内報告などを文献として引用するのは適当でない.

2. 著作権

1. 掲載される記事の著作権及び電子的形体による利用も含めた包括的な著作権も原則として本会に帰属し, その運用方法は次のとおりである.

(a) 著者自身が自分の記事を複製・翻訳・翻案などの形で利用することは差し支えないし, また, 本会はこれに対して異議申立てをしたり, 妨げることはしないが, 翻訳利用, 及び記事を全体的あるいは大部分他の著作物に利用する場合には, その旨本会 (事務局) に申し出るとともに, 出典を明記されたい. また, 一部分を利用する場合には, 文献あるいは図説の下に出典を明記すること.

(b) 下記のような特別な事情で著作権の本会への帰属が困難な場合には, 著者と本会の間で別途協議するので申しらるたい.

(1) 大会の特別講演記事などで, 特に著者が著作権の移転を望まない場合.

(2) 記事内容が, 著者個人のみでなく, 著者の所属する機関などにかかわるもので, 著作権の帰属に関し, 所属機関の了承が得られない場合.

以上の方針を御了承頂いた上で記事原稿を作成されることを希望します.

2. 他誌から本誌に引用される場合は, 次のことに十分留意されたい.

(a) 引用する文献の著作権に十分注意されたい.

(b) 図面・表・写真を他の図書、雑誌などから引用する場合には、事前に、その著者及び出版社の了承を得られたい。

3. その他

(a) 原稿の送付先

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館101

(社) 電子情報通信学会 サービス事業部 機関誌 (FR) 担当 (E-mail: service@ieice.org)

(b) 正誤 著者から正誤の申し出があった場合には原稿と対照し、誤植と原稿訂正との別を明らかにして最近号に掲載する。

(c) 必要な場合には「著者紹介」のための写真、略歴をお願いする。

ご参考：Fundamentals Review 編集委員会

編集長	中村 勝洋
編集幹事	西尾 芳文
回路とシステム(CAS)	中村 祐一
情報理論(IT)	鴻巣 敏之
信頼性(R)	弓削 哲史
超音波(US)	近藤 淳
応用音響(EA)	岩城 正和
非線形問題(NLP)	丹治 裕一
VLSI 設計技術(VLD)	伊藤 和人
情報セキュリティ(ISEC)	國廣 昇
信号処理(SIP)	宝珠山 治
ワイドバンドシステム(WBS)	滝沢 賢一
コンカレント工学(CST)	内平 直志
思考と言語(TL)	近藤 公久
技術と社会・倫理(SITE)	雨宮 俊一
安全性(SSS)	鈴木 喜久
ITS(高度交通システム)(ITS)	水井 潔
スマートインフォメディアシステム(SIS)	山崎 彰一郎
イメージ・メディア・クウォリティ時限研究専門委員会	杉山 賢二

平成 18 年度 ESS 運営委員会メンバ紹介 (その 2)



小林 岳彦 (ワイドバンドシステム研究専門委員会委員長)

1953 年生まれ。1983 年東大大学院 (電気工学) 博士課程修了。工学博士。同年 NTT 入社。1986 年米国国立標準局 (NBS, 現 NIST) 客員研究員。1996 年 NTT 国際本部マレーシアプロジェクト。1998 年 NTT ドコモ転籍。2001 年東京電機大学教授、現在に至る。ワイヤレスシステム、アンテナ・伝搬、EMC などの研究・教育に従事。本会評議員、総務省情報通信審議会専門委員等。

ひとこと：前身であるスペクトル拡散研究会が 20 年前に二種研として発足して以来、スペクトル拡散/ワイドバンドシステム技術は移動通信、ワイヤレス LAN、GPS などさまざまな分野で結実してきました。今後も、理論とシステム化技術の両面で、特に若手が活躍できる場を提供してゆきたいと考えています。

15th IEEE International Workshop on Nonlinear Dynamics of Electronic Systems (NDES 2007)

Shikoku University Community Plaza, Tokushima, Japan
July 23–26, 2007



Call for Papers

The 15th International Workshop on Nonlinear Dynamics of Electronic Systems (NDES 2007) will be held on July 23rd–26th 2007, at the Shikoku University Community Plaza, Tokushima, Japan. This conference aims to stimulate and enable scientists from all over the world to exchange knowledge and ideas in the field of nonlinear dynamics and its applications. Nonlinear phenomena are observed in diverse areas such as physics, biology, economics, ecology, electronics and computer science. The workshop will present cutting-edge research in this highly active field and explore new perspectives for nonlinear dynamics in interdisciplinary applications. Further, the traditional topics of nonlinear circuits, data analysis and also applications to cognitive science will be considered.

NDES 2007 is actually the 15th in a series of international specialist workshops, the first of which took place in Dresden in 1993. From its origins, the NDES has blossomed into a truly international event, the largest of its kind in Europe. NDES 2007 will be the first opportunity to organize NDES far away from Europe. The workshop shall bring together specialists in mathematical, natural and engineering sciences in order to provide an opportunity to meet in a low-cost informal setting to address new theoretical and practical results, novel analysis and design methods in nonlinear dynamic systems and circuits and to discuss open problems in nonlinear science.

Fields of interest are (not limited to):

- theories and numerical analysis of nonlinear circuits and systems
- modeling and simulations of nonlinear circuits and systems
- applications of nonlinear dynamics
- nonlinear signal processing
- time-series analysis
- bifurcation phenomena
- controlling chaos, chaos synchronization
- chaos applications
- nonlinear oscillations
- neuro dynamics

Symposium Committee

General Chair

Yoshifumi Nishio (Tokushima Univ.)

Technical Program Chair

Tetsushi Ueta (Tokushima Univ.)

Local Arrangement Chair

Yasuteru Hosokawa (Shikoku Univ.)

Secretary

Yoko Uwate (Tokushima Univ.)

Organizers:

IEEE CAS Society, Shikoku Chapter Shikoku University Tokushima University

In Cooperation with:

IEEE Shikoku Section IEICE Research Society of NOLTA IEEE CAS Society Nichia Corporation

Authors are invited to submit a summary in PDF format (up to 4 pages) through <http://ndes07.is.tokushima-u.ac.jp>. After the acceptance, authors will be required to submit the 4-page camera-ready papers for the workshop proceedings. All correspondence will be via e-mail. No hard copies will be accepted. At least one author of each paper must register for the Symposium for papers to be included in the program. For more information, please visit the workshop web page or contact the symposium committee: ndes07@is.tokushima-u.ac.jp

Summary submission deadline	April 15	2007
Notification of acceptance	May 15	2007
Deadline for 4-page camera-ready	June 15	2007

第 20 回 回路とシステム軽井沢ワークショップ開催案内

毎年、春に開催しております回路とシステム軽井沢ワークショップ (KWS) も、今回で 20 回目を迎えることとなりました。本ワークショップは、回路とシステムに関連した分野の研究者や技術者が集い、招待論文や投稿論文、パネル討論を通じて、分野内だけでなく分野間にまたがる境界領域の課題解決と、将来の研究分野の探求を目的としています。今回は、吉川 孝雄氏 (ソニー株式会社) により特別招待講演「ビデオカメラ用 AVCHD 規格の策定と今後のビデオカメラ動向」をはじめ、17 件の招待講演を含む多彩なプログラムを用意しております。研究者間の技術交流の場として、また最先端の研究に接する絶好の機会ですので、皆様奮ってご参加ください。

第 20 回 回路とシステム軽井沢ワークショップ実行委員長 阿部 正英 (東北大)

記

ホームページ: <http://www.ieice.org/ess/kws/>

開催日: 2007 年 4 月 23 日 (月), 24 日 (火)

会場: 軽井沢プリンスホテル・西館・国際会議場 浅間 (長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢, TEL 0267-42-1111)

会場受付: 4 月 22 日 (日) 18:00 ~ 20:00, 23 日 (月) 8:00 ~, 24 日 (火) 8:00 ~ 浅間会場前ロビー

特別招待講演: 「ビデオカメラ用 AVCHD 規格の策定と今後のビデオカメラ動向」吉川 孝雄 (ソニー)

招待講演: 下記の招待講演を予定しています。

- 「チップ/パッケージ/ボード統合設計に向けた電気系シミュレーション技術の現状と将来展望」 浅井 秀樹 (静岡大)
- 「パワーインテグリティと電源コモンモードの EMI シミュレーション」 須藤 俊夫 (東芝)
- 「ヒト運動制御の計算論的アプローチから BMI へ」 和田 安弘 (長岡技科大)
- 「Design for Manufacturability of Analog and RFICs」 森山 誠二郎 (PDF ソリューションズ)
- 「ソフトウェア無線技術の基礎」 荒木 純道 (東工大)
- 「ソフトウェア無線を指向した信号処理と無線機構成」 鈴木 康夫 (農工大)
- 「リコンフィギュラブル RF 回路技術の研究」 益 一哉 (東工大)
- 「論理回路に対する高品質遅延テスト」 梶原 誠司 (九工大)
- 「製造・環境ばらつきと動的性能補償を考慮したタイミング検証に向けて」 橋本 昌宣 (阪大)
- 「大規模データ処理に対するアルゴリズム理論からのアプローチ」 宇野 毅明 (国立情報学研究所)
- 「簡潔データ構造」 定兼 邦彦 (九大)
- 「プロセス指向を実装した言語 (occam-, JCSP, C++CSP) とその手法」 松井 和人 (CSP コンソーシアム)
- 「計算にもとづくネットワークプログラミング言語 Nepi」 真野 健 (NTT)
- 「定数ラウンドの適応的分散故障診断手法について」 藤田 聡 (広島大)
- 「正則なグラフの適応型故障診断」 荒木 徹 (岩手大)
- 「マルチプロセスシステムの逐次故障診断について」 山田 敏規 (埼玉大)
- 「生命パスイエイのシステム的理解に向けたベトリネット表現と応用」 松野 浩嗣 (山口大)

参加費:

	2007 年 4 月 6 日 (金) まで	2007 年 4 月 7 日 (土) から開催期間中
会員	20,000 円	23,000 円
非会員	25,000 円	28,000 円
学生	10,000 円	11,000 円

いずれも論文集代, 論文データを収録した CDROM 代, 懇親会費を含みます。なお, 本ワークショップに投稿された論文の著作権は筆者にあり, 筆者が CDROM への収録を拒否されたものは収録しません。

同伴者の懇親会費用は, 学生 5,000 円, 一般 8,000 円 となっています。

会員とは, 電子情報通信学会, 電気学会または IEEE の個人会員のことです。

参加に関する取消料: 参加申込後、参加者のご都合で申し込みを取り消される場合は、取消料をいただきます。御了承の上、参加申し込みを御願い致します。

開催初日の 7 日前まで	0%
6 日以降	100%

なお, 費用が発生した場合, 後日請求致します。振込確認後, 論文集を送付致します。

参加申込：参加申込はワークショップのホームページよりお願いします。

会場の受付で参加申込することも可能です。

参加費は会場受付にてお支払い下さい。なお、軽井沢プリンスホテルに宿泊なさらない場合でも参加申込は必要ですので、必ず事前にお申し込み下さい。

参加申込問合せ先：田岡 智志（参加担当幹事）

〒739-8527 広島県 東広島市 鏡山 1-4-1

広島大学 大学院工学研究科 情報工学専攻

Tel: 082-424-7666, Fax: 082-422-7028, E-mail: kws-20regist@mail.ieice.org

交通：電車 JR 北陸新幹線、軽井沢駅からタクシー 5 分、徒歩 15 分

車 上信越自動車道碓氷軽井沢 IC から 10km

宿泊：参加申込時に以下の特別料金（サービス料、諸税込）による軽井沢プリンスホテルならびに千ヶ滝温泉ホテルの宿泊を受付けます。ただし、2007 年 4 月 22 日（日）、23 日（月）の宿泊に限ります。

● 軽井沢プリンスホテル 西館プリンスコテージ：

〈A1 タイプ〉 ツイン 2 部屋、バストイレは 1 ヶ所、4 名定員	4 名 1 棟利用	7,200 円/人
〈A2 タイプ〉 ツイン 2 部屋、バストイレは 1 ヶ所、4 名定員	3 名 1 棟利用	8,200 円/人 (1、2 名使用の両部屋とも)
〈D1 タイプ〉 ツイン 2 部屋、各部屋バストイレ付、4 名定員	4 名 1 棟利用	7,700 円/人
〈D2 タイプ〉 ツイン 2 部屋、各部屋バストイレ付、4 名定員	3 名 1 棟利用	8,700 円/人 (1、2 名使用の両部屋とも)
〈F1 タイプ〉 ツイン 4 部屋、各部屋バストイレ付、8 名定員	8 名 1 棟利用	7,700 円/人
〈F2 タイプ〉 ツイン 4 部屋、各部屋バストイレ付、8 名定員	7 名 1 棟利用	8,200 円/人 (1、2 名使用の全部屋とも)

注：コテージ宿泊は 1 名からでも可能ですが、同泊者がいない場合はホテル側のアレンジに任せて頂きます。また、その場合、宿泊料金を指定してください。

● 軽井沢プリンスホテル 西館ツインルーム：

ツイン 1 名 1 室利用	19,200 円	(ツインの 1 名利用)
ツイン 2 名 1 室利用	10,200 円	(ツイン)

注：西館ツインルームには 25 部屋ほど有線 LAN が敷設されている部屋があります。利用したい方は申込み時に「備考欄」にその旨を記載してください。なお部屋数に限りがあり、必ずしもご期待に添えるとは限りませんので、予めご了承ください。

● 軽井沢千ヶ滝温泉ホテル (中軽井沢)：

シングル	7,200 円	
ツイン 1 名 1 室利用	10,200 円	(ツインの 1 名利用)
ツイン 2 名 1 室利用	5,200 円	(ツイン)

注：軽井沢プリンスホテル会場への送迎バスは、朝夕 1 便運行 (約 20 分)。途中、会場を退場し軽井沢千ヶ滝温泉ホテルにお帰りの際は、タクシーまたは他の交通機関を御利用下さい。ご不便をかけますが、上記特別料金にて御利用できますので御了承ください。

子供料金について：小学生以下ならば、上記の宿泊費から、500 円割引となります。

取り消し料：お申込後、参加者のご都合で予約を取り消される場合は、1 名様につき下記の取消料をいただきます。

14 日前～8 日前	10%
7 日前～前日	20%
当 日	80%
当日無連絡不参加	100%

宿泊申込：宿泊申込書は、ホームページから入手し、必要事項を記入して、E-mail または FAX で下記の宿泊申込先までお送り下さい。振込の通知をお送りしますので、宿泊費は事前にお振込下さい。

宿泊申込先：西武観光 (担当：土屋，安藤，奥山)

TEL：03-3981-8181，FAX：03-5391-3636

E-mail：y.tsuchiya@grp.seibu-group.co.jp

宿泊申し込み締切日：宿泊申込は2007年4月12日(木)となっております。なお、締切日以降でも空室があれば宿泊できますので、その際は上記宿泊申込先までお問い合わせ下さい。

宿泊費の領収証について：領収証が必要な方は、宿泊申し込み時に申し込んでください。宿泊申込書に記入の欄があります。

宿泊関係の問合せ先：蜂屋 孝太郎 (会計・会場・宿泊担当幹事)

〒211-8668 神奈川県 川崎市 中原区 下沼部 1753

NEC エレクトロニクス (株) 設計技術事業部

Tel: 044-435-1511, Fax: 044-435-1888, E-mail: kws-20finance@mail.ieice.org